

三浦半島の医療の歴史 ⑭

I Saw the Light, 福井記念病院（上）

昭和大学精神神経学教室・関東労災病院 金川英雄

「私は光を見た」

ハंक・ウィリアムズのカントリーウエスタンの名曲だ。歌詞の「光」は光明、希望の光というニュアンスだ。歌は演奏旅行で、暗闇の果てに見える街の光を見た母の何気ない一言で、車の中で一気に書き上げたという。写真では分かりにくいのが、彼の墓にも、歌詞が刻まれている。（図1－ハंक・ウィリアムズの墓）

ウィリアムズは生まれながらの二分脊椎症だった。作詞、作曲の歌が大ヒットし、当時の居住性の悪い乗用車で、演奏旅行をしていた。それゆえよけいに目的地の街の灯が見えたときはほっとしたのだろう。

メロディーは軽快で歌詞も平易、内容はムチャクチャで反省の無い人生を送ったが、ある日希望の光明を見たという讃美歌「アマー

ジング・グレース」¹と同じテーマのメッセージソングだ。

患者さんにとって、精神科病院というのは暗闇の灯台のように感じると思う。入院を必要とする人は、病気になった事だけではなく、特殊な目で見られることでも傷つく。

2016年3月17日福井記念病院訪れたが、近代的病院なので驚いた。（図2－福井記念病院）精神科病棟だけでなく、合併症病棟があり外科医、内科がいることだ。てっきり精神科医だと思って話していたら、相手がもともとは外科医だと言われてびっくりした。

重要なのは、高齢化が進む三浦市にとって、内科的治療を行う病院が、三浦市立病院だけではないということだ。高齢者の入院治療の一つの受け皿になっている。

がんばっている総合病院には、救命救急と内科合併症で、統合失調症や精神障害の人が入院してくる。同じようにがんばっている精神科病院ほど、内科外科の合併症患者が入院してくる。そして精神病患者の内科、外科的治療は大変困難を伴う。

福井記念病院は故福井東一（図3－福井東



図1－ハंकウィリアムズの墓



図2－福井記念病院



図3－福井東一のレリーフ

一のレリーフ)が、昭和34年に葉山に一軒の家を借りて開設した葉山診療所がそのもとになっている。福井東一医師は大正12年8月14日生まれ、なぜそんなに詳しく分かるかという、病院の一番目立つところにレリーフと一緒に略歴が刻みこまれている。(図4－略歴)

昭和38年診療所から発展、三浦市に初声荘病院を開設した。

「福井先生がイギリスで治療共同体(略)が面白い(略)病院の中をなるだけ開放にして一日に一回みんなが集まって話をしたり、コミュニケーションをよくすると、みんな自然によくなってくる。(略)日本でできるだろうかということで福井先生が病院を作って、それが三浦市にある初声荘病院」

同じ慈恵会医科大学出身の増野肇²の回想談³だが、精神科開放医療を試みた。

レリーフによると、昭和55年11月に医療法人青山会が成立し理事長に就任、平成7年1



図4－略歴

月3日に72歳で亡くなっている。胸像などは良くあるが、病院にこのようにプレートで刻み込んでいる例は少ないようだ。

昭和63年から青山会が、福井記念病院と名を変えて拡大し、平成17年に新病棟を建設し増床(現在498床)し、三浦市の精神科医療を担っている。

先ほど述べたように初期に精神科病院の開放化を目指したが、困難を伴ったようだ。演者が駆け出しの頃、医局から埼玉の病院に派遣されていたが、少し離れたところに完全開放をうたった三枚橋病院があった。良く患者が紹介されてきたが、具合が悪くなると見切れなかったようだ。

また昔青森県八戸市に、患者が芸術療法で立派な作品を作る精神科病院があったが、なぜそんな作品を作る患者が入院しているのか問題になった。当時の院長は、患者の行くところが無いから病院に住まわせているのだと、インタビューに答えていた。2016年8月4日八戸市に行き、そこを外から見たが新病棟を建設しふつうの精神科病院になっていた。

影があるから、光が目立つ。レンブラントに光と影の効果的な使用で有名な『夜警』(図5－夜警)という絵がある。アムステルダムの国立美術館にあり、彼の代表作だ。強い日



図5－レンブラント－夜警

光が斜め上から差し込んでいるように描かれ、陰影ができ群像中央の人物を浮かび上がらせる。

この絵には3つの笑い話がある。夜警とは通称名で正確には『フランス・バニング・コック隊長とウィレム・ファン・ラウテンブルフ副隊長の市民隊』である。描かれてから時が経ち、表面が黒ずんだため、夜の風景と思われた。20世紀の洗浄作業で、絵は明るみを取り戻し昼間の風景だと分かった。

もう一つは掲載図に白い線が引かれているが、絵が切り取られた跡だ。図は17世紀のヘリット・ルンデンスによる模写である。1715年、掲げられていた火縄銃手組合集会所ホールから、アムステルダム市役所に移す際、二本の柱の間に絵がきちんと納まるようにはみ出し部分を切り落としたという。レンブラントの絵を切り落としたら、それだけで歴史に名を残すが、氏名不詳だ。

3つめはこの絵は、隊長と隊員17名で、制作を発注しお金を出し合った。だが平等に各人を描かなかつたレンブラントに不満を持ち、これが『夜警』以後の彼の人生の転落の始まりになったという伝説がある。

現在神奈川県東部の精神医療は大変なのだ。国家資格である精神保健指定医の取得に関する違反問題、連続殺人事件者の早期退院、その他にもあまり知られていないが、私立精神科病院での院内殺人事件もあった。

「本当か？ 横須賀では何も聞かないぞ」

そういう先生もいるかもしれない。三浦半島は三浦市に福井記念病院、横須賀市に湘南病院がある。湘南病院は総合病院だが、精神科病棟に重点がある。その他にもディケアを抱える大規模メンタルクリニックが控えて、精神科医療がふつうに淡々と行われているか

らだ。

青山会福井記念病院はみくるべ病院を取り入れ、関内クリニックを併設し進化し続けている。三浦半島の輝きを強調するために影の部分、現在の精神科問題点も少し分析してみたい。

だがおめでたい新年号なので、それは次回に回し、精神科医連携加算を最後に説明する。実は私も最近まで知らなかった。

精神科以外の医療機関が、

- ①うつ病を疑い、
- ②精神科を標榜する別の保険医療機関に、
- ③診療情報提供書を書き、
- ④一ヶ月以内に予約をとり、
- ⑤予約受診日をカルテ記載すると、450点になる。

細則があるので資料で確認してほしい。三浦半島は高齢者が多いので、老人性うつ病という病名でもよいのではないだろうか。精神科には点数はもらえないが、連携でぜひ活用して欲しいシステムだ。

¹ 「アメージング・グレース」:「かつては迷ったが、今は見つけられ、かつては盲目であったが、今は見える」という歌詞がある。カトリックには原罪というもとの罪があり、それをイエズスが救ってくれたという発想があるせいだろうか。

² 増野肇：1975年栃木県精神衛生センター所長、1986年宇都宮大学教育学部教授、1991年日本女子大学教授、2001年ルーテル学院大学教授。2012年退職。

³ 回想談：心を通わせる精神医療 [http://www15.big.or.jp/~frenz/mashino.html. 2016/12/2]